

学位論文に係る評価基準

理工学研究科

物理学専攻

【修士学位論文】

1. 研究目的が明確かつ的確であること。
2. 関連分野の先行研究を包括的に把握した上で、当該研究をその研究動向の中に位置づけていること。
3. 研究目的に基づいて適切な研究方法が用いられ、論証のためのデータ・資料が適切かつ十分に収集されるとともに、的確に分析されていること。
4. 論証過程において、論旨が明確かつ一貫しており、学術論文として体系的に構成されていること。
5. 当該分野における学術研究として新規性を有すること。
6. 研究倫理を遵守していること。

【博士学位論文】

1. 研究の目的、および、その学術的意義が明確かつ的確であること。
2. 関連分野の先行研究を網羅的かつ包括的に把握した上で、当該研究をその研究動向の中に位置づけていること。
3. 研究目的に基づいて適切な研究方法が用いられ、論証のためのデータ・資料が適切かつ十分に収集されるとともに、的確に分析されていること。
4. 論証過程において、論旨が明確かつ一貫しており、学術論文として体系的に構成されていること。
5. 当該分野における学術研究として独創性を有すること。
6. 研究倫理を遵守していること。

化学専攻

【修士学位論文】

1. 研究の背景および目的が明確に記載され、関連分野における研究動向にも留意し、当該研究を遂行する意義が述べられていること。
2. 研究倫理を遵守し、研究目的に沿った実験方法が用いられ、実験結果が客観的に解釈され、論理的に考察されていること。
3. 修士論文が学術論文として体系的に構成され、独創性を有する内容であること。

【博士学位論文】

1. 研究の背景および目的が明確に記載され、関連分野における研究動向にも留意

し、当該研究を遂行する学術的・社会的意義が述べられていること。 2. 関連分野の先行研究を把握し、当該研究の意義を明確にしていること。 3. 研究倫理を遵守し、研究目的に沿って研究計画がたてられ、得られた実験結果および考察が第三者の批判に耐えうるものであること。 4. 学術研究として独自性と創造性を有し、将来的に社会貢献に寄与できるものであること。
機械工学専攻 【修士学位論文】 1. 学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果であること。 2. 論文の内容は、当該専門分野における新規性または独創性を有すること。 3. 研究背景が記述され、研究目的が明確であること。 4. 研究目的に基づいて適切な研究方法が用いられ、論証のためのデータ・資料が適切かつ十分に収集されるとともに、的確に分析されていること。 5. 論証過程において、論旨が明確かつ一貫しており、当該専門分野の学術論文として体系的に構成されていること。 6. 機械工学専攻博士前期課程研究論文発表会での発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明解に行われたこと。 7. 研究倫理を遵守していること。 【博士学位論文】 1. 学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果であること。 2. 研究内容に新規性、独創性、有効性を有し、当該専門分野および社会の発展に寄与する内容であること。 3. 研究分野に関連する高度で幅広い専門的知識を有し、先行研究の調査が十分に行われ、それらの評価が的確であり、研究の学術的・社会的意義が明確であること。 4. 研究目的に基づいて適切な研究方法が用いられ、論証のためのデータ・資料が適切かつ十分に収集されるとともに、的確に分析されていること。 5. 論証過程において、論旨が明確かつ一貫しており、学術論文として体系的に構成されていること。 6. 機械工学専攻博士後期課程研究論文発表会での発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明解に行われたこと。 7. 研究倫理を遵守していること。
電気工学専攻 【修士学位論文】 1. 学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果であること。

2. 論文の内容は、新規性または有用性を有していること。
3. 論文の構成・内容が適切であること。
 - (1) 論文の題目が適切であること。
 - (2) 研究の背景が記述され、研究目的が明確であること。
 - (3) 研究の方法が記述されており、目的に沿った方法であること。
 - (4) 結果が図表等を用いて適切に示されていること。
 - (5) 考察が結果に基づいて適切に導き出されていること。
 - (6) 目的に対応して結論が適切に導き出されていること。
 - (7) 文献が適切に引用されていること。
4. 論文発表会での発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明確に行われたこと。

【博士学位論文】

1. 学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果であること。
2. 論文の内容に新規性が明示され、当該分野の学問の発展に貢献できる内容を有していること。
3. 先行研究の評価や事実調査が的確であり、研究の学術的あるいは社会的位置付けが明示されていること。
4. 研究の方法が明確かつ具体的に記述されていること。
5. 課題解決のための適切な手法の選択と創意工夫がなされていること。
6. 研究に対する解析・考察の展開が論理的に説明され、結果が明瞭に示されていること。
7. 引用等が適切になされ、公開する発表論文としての体裁が整っていること。
8. データ改竄、捏造、剽窃などの研究不正を行っていないこと。
9. 公開の場での論文内容の発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明解に行われたこと。

建築・建設工学専攻

【修士学位論文】

1. 研究目的および意義が明確かつ的確であること。
2. 関連分野の先行研究を包括的に把握した上で、当該研究をその研究動向の中に位置づけていること。
3. 研究目的に基づいて適切な研究方法が用いられ、論証のためのデータ・資料が適切かつ十分に収集されるとともに、的確に分析されていること。
4. 論証過程において、論旨が明確かつ一貫しており、学術論文として体系的に構成されていること。
5. 当該分野における学術研究として独創性を有すること。

6. 研究倫理を遵守していること。

【修士設計】（特定課題研究）

1. 設計の目的および意義が明確かつ的確であること。
2. 設計テーマに関連する先行事例を包括的に把握した上で、当該設計をその動向の中に位置づけていること。
3. 提起した問題、導入した概念や設計方法の新規・独創性および提案された設計案の新規性・有用性が明確に示されていること。
4. 他者にわかりやすい表現で美しくプレゼンテーションされていること。
5. 研究倫理を遵守していること。

【博士学位論文】

1. 研究の目的、および、その学術的・社会的意義が明確かつ的確であること。
2. 関連分野の先行研究を網羅的かつ包括的に把握した上で、当該研究をその研究動向の中に位置づけていること。
3. 研究目的に基づいて適切な研究方法が用いられ、論証のためのデータ・資料が適切かつ十分に収集されるとともに、的確に分析されていること。
4. 論証過程において、論旨が明確かつ一貫しており、学術論文として体系的に構成されていること。
5. 学術研究として独自性と創造性を有するとともに、社会的な貢献をなすものであること。
6. 研究倫理を遵守していること。

環境システム学専攻

【修士学位論文】

1. 環境科学分野に関する広範な知識に基づき研究課題を位置づけ、その研究目的および意義が明確かつ的確であること。
2. 環境科学分野の先行研究を包括的に把握した上で、当該研究の意義を地域的および地球的視点から位置づけていること。
3. 研究目的を達成するための適切な研究方法が用いられ、論証のためのデータ・資料が適切かつ十分に収集されるとともに、的確に分析されていること。
4. 論証過程において、論旨が明確かつ一貫しており、学術論文として体系的に構成されていること。
5. 技術者倫理を理解し、環境技術者として自らの倫理的な判断基準・行動原則を有していること。

【博士学位論文】

1. 環境科学分野に関する広範な知識に基づき研究課題を位置づけ、その研究目的

および意義が明確かつ的確であること。

2. 環境科学分野の先行研究を包括的に把握した上で、当該研究の意義を地域的および地球的視点から位置づけていること。
3. 研究目的を達成するための適切な研究方法が用いられ、論証のためのデータ・資料が適切かつ十分に収集されるとともに、的確に分析されていること。
4. 論証過程において、論旨が明確かつ一貫しており、学術論文として体系的に構成されていること。
5. 技術者倫理を理解し、環境技術者として自らの倫理的な判断基準・行動原則を有していること。

人文学研究科

英米文学専攻

【修士学位論文】

(論文構成)

1. 論文テーマが適切であること。
2. 研究方法が記述されており、研究目的が明確であること。
3. 引用文献が適切に用いられていること。
4. 研究倫理を遵守した研究であること。
5. 原則として日本語または英語で執筆されていること。
6. 以下の書式・文字数を満たしていること。

和文：WORD ・A4 サイズで 40 字 x 30 行 20,000 字以上

英文：WORD ・A4 サイズで 40 字 x 30 行 9,000 words 以上

(論文内容)

1. 研究分野の水準に照らして、十分な学術的価値を有すること。
2. 先行研究を着実に踏まえ、的確にデータの収集・処理、及びその分析・解釈を行っていること。
3. 論理的・方法論的に一貫した構成であり、完結性を有すること。

【博士学位論文】

(論文構成)

1. 論文テーマが適切であること。
2. 研究方法が記述されており、研究目的が明確であること。
3. 論文構成・分量が適切であること。
4. 引用文献が適切に用いられていること。
5. 研究者倫理を遵守したものであること。
6. 原則として日本語または英語で執筆されていること。

(論文内容)

1. 国際水準に照らして、十分な学術的価値を有すること。
2. 先行研究を着実に踏まえ、的確にデータの収集・処理、及びその分析・解釈を行っていること。
3. 論理的・方法論的に一貫した構成であり、高いレベルの完結性を有すること。

社会学専攻

【修士学位論文】

(論文構成)

1. 論文の題目が適切であること。
2. 研究の背景が記述され、研究目的が明確であること。

3. 研究方法が記述されており、目的に沿った方法であること。
4. 目的に対応して結論が適切に導き出されていること。
5. 引用文献が適切に用いられていること。
6. 適切な章立てにより、前項までの内容が不足なく含まれていること。
7. 研究者倫理を遵守したものであること。
8. 原則として日本語または英語で執筆されていること。

(論文内容)

1. 専攻分野において十分な学術的価値を有すること。学術的価値とは、未知の事象・事物の発見、新しい分析方法や理論の構築・展開、新しい学問的解釈や概念の提出など、当該分野における学術研究の発展に貢献をなすものを指す。
2. テーマの選択、ならびにそのテーマに即した研究方法の選択が、先行研究を着実に踏まえて行われており、学界において一定の評価が得られるものであること。
3. 選択したテーマと研究方法に従って先行研究・データ・資史料などを的確に収集・処理し、分析・解釈を加えていること。
4. 論理的に一貫した構成と内容を有し、高いレベルで完結性を有すること。

【博士学位論文】

(論文構成)

1. 論文の題目が適切であること。
2. 研究の背景が記述され、研究目的が明確であること。
3. 研究方法が記述されており、目的に沿った方法であること。
4. 目的に対応して結論が適切に導き出されていること。
5. 引用文献が適切に用いられていること。
6. 適切な章立てにより、前項までの内容が不足なく含まれていること。
7. 研究者倫理を遵守したものであること。
8. 原則として日本語または英語で執筆されていること。

(論文内容)

1. 専攻分野において十分な学術的価値を有すること。学術的価値とは、未知の事象・事物の発見、新しい分析方法や理論の構築・展開、新しい学問的解釈や概念の提出など、当該分野における学術研究の発展に貢献をなすものを指す。
2. テーマの選択、ならびにそのテーマに即した研究方法の選択が、先行研究を着実に踏まえて行われており、学界において一定の評価が得られるものであること。
3. 選択したテーマと研究方法に従って先行研究・データ・資史料などを的確に収集・処理し、分析・解釈を加えていること。

4. 論理的に一貫した構成と内容を有し、高いレベルで完結性を有すること。
5. その領域及び近隣の領域の優れた先行研究の水準に達していること。
6. 論文博士の場合は、1. については、専攻分野の国際水準において十分な学術的価値を有することとする。

心理学専攻

【修士学位論文】

(論文構成)

1. 論文の題目が適切であること。
2. 研究の背景が記述され、研究目的が明確であること。
3. 研究方法が記述されており、目的に沿った方法であること。
4. 目的に対応して結論が適切に導き出されていること。
5. 引用文献が適切に用いられていること。
6. 適切な章立てにより、前項までの内容が不足なく含まれていること。
7. 研究者倫理を遵守したものであること。
8. 原則として日本語または英語で執筆されていること。

(論文内容)

1. 専攻分野において十分な学術的価値を有すること。学術的価値とは、未知の事象・事物の発見、新しい分析方法や理論の構築・展開、新しい学問的解釈や概念の提出など、当該分野における学術研究の発展に貢献をなすものを指す。
2. テーマの選択、ならびにそのテーマに即した研究方法の選択が、先行研究を着実に踏まえて行われており、学界において一定の評価が得られるものであること。
3. 選択したテーマと研究方法に従って先行研究・データ・資史料などを的確に収集・処理し、分析・解釈を加えていること。
4. 論理的に一貫した構成と内容を有すること。
5. その領域及び近隣の領域の優れた先行研究の水準に達していること。

【博士学位論文】

(論文構成)

1. 論文の題目が適切であること。
2. 研究の背景が記述され、研究目的が明確であること。
3. 研究方法が記述されており、目的に沿った方法であること。
4. 目的に対応して結論が適切に導き出されていること。
5. 引用文献が適切に用いられていること。
6. 適切な章立てにより、前項までの内容が不足なく含まれていること。
7. 研究者倫理を遵守したものであること。

8. 原則として日本語または英語で執筆されていること。

(論文内容)

1. 専攻分野において国際水準での十分な学術的価値を有すること。学術的価値とは、未知の事象・事物の発見、新しい分析方法や理論の構築・展開、新しい学問的解釈や概念の提出など、当該分野における学術研究の発展に貢献をなすものを指す。
2. テーマの選択、ならびにそのテーマに即した研究方法の選択が、先行研究を着実に踏まえて行われており、学界において一定の評価が得られるものであること。
3. 選択したテーマと研究方法に従って先行研究・データ・資史料などを的確に収集・処理し、分析・解釈を加えていること。
4. 論理的に一貫した構成と内容を有し、高いレベルで完結性を有すること。
5. その領域及び近隣の領域の優れた先行研究の水準に達していること。

国際コミュニケーション専攻

【修士学位論文】

(論文構成)

1. 論文テーマが適切であること。
2. 研究方法が記述されており、研究目的が明確であること。
3. 引用文献が適切に用いられていること。
4. 研究倫理を遵守した研究であること。
5. 原則として日本語または英語で執筆されていること。
6. 以下の書式・文字数を満たしていること。

和文：WORD ・A4 サイズで 40 字 x 30 行 20,000 字以上

英文：WORD ・A4 サイズで 40 字 x 30 行 9,000 words 以上

(論文内容)

1. 研究分野の水準に照らして、十分な学術的価値を有すること。
2. 先行研究を着実に踏まえ、的確にデータの収集・処理、及びその分析・解釈を行っていること。
3. 論理的・方法論的に一貫した構成であり、完結性を有すること。

【博士学位論文】

(論文構成)

1. 論文テーマが適切であること。
2. 研究方法が記述されており、研究目的が明確であること。
3. 論文構成・分量が適切であること。
4. 引用文献が適切に用いられていること。

5. 研究者倫理を遵守したものであること。
6. 原則として日本語または英語で執筆されていること。

(論文内容)

1. 国際水準に照らして、十分な学術的価値を有すること。
2. 先行研究を着実に踏まえ、的確にデータの収集・処理、及びその分析・解釈を行っていること。
3. 論理的・方法論的に一貫した構成であり、高いレベルの完結性を有すること。

情報学専攻

【修士学位論文】

1. 研究目的および意義が明確かつ的確であること。
2. 関連分野の先行研究を包括的に把握した上で、当該研究をその研究動向の中に位置づけていること。
3. 研究目的に基づいて適切な研究方法が用いられ、論証のためのデータ・資料が適切かつ十分に収集されるとともに、的確に分析されていること。
4. 論証過程において、論旨が明確かつ一貫しており、学術論文として体系的に構成されていること。
5. 当該分野における学術研究として独創性を有すること。
6. 研究倫理を遵守していること。

【博士学位論文】

1. 研究の目的、および、その学術的・社会的意義が明確かつ的確であること。
2. 関連分野の先行研究を網羅的かつ包括的に把握した上で、当該研究をその研究動向の中に位置づけ、新規性を明らかにしていること。
3. 研究目的に基づいて適切な研究方法が用いられ、論証のためのデータ・資料が適切かつ十分に収集されるとともに、的確に分析されていること。
4. 論証過程において、論旨が明確かつ一貫しており、学術論文として体系的に構成されていること。
5. 学術研究として独自性と創造性を有するとともに、社会的な貢献をなすものであること。
6. 研究倫理を遵守していること。

応用経済学専攻

【修士学位論文】

1. 研究目的が明確であり、研究が的確な意義を有すること。
2. 研究テーマに関連する先行研究または調査結果等を参考文献として網羅し、当該分野の知見が整理・評価されていること。また、論文がこれらの成果を踏まえた上での論述であること。
3. 学術的観点から見て、何らかの新たな貢献があること。
4. 論理的で内容に一貫性があり、客観的な分析が示されていること。
5. 正確かつ適正な文章表現であること。
6. 内容が研究倫理の観点に照らして問題がないこと。

【特定課題研究】

1. 研究目的が明確であり、研究が的確な意義を有すること。
2. 研究テーマに関連する先行研究または調査結果等を参考文献として網羅し、当該分野の知見が整理・評価されていること。また、論文がこれらの成果を踏まえた上での論述であること。
3. 学術的観点から見て、何らかの新たな貢献があること。
4. 論理的で内容に一貫性があり、客観的な分析が示されていること。
5. 正確かつ適正な文章表現であること。
6. 内容が研究倫理の観点に照らして問題がないこと。

教育学専攻

【修士学位論文】

1. 研究の目的、および、その意義が明確かつ的確であること。
2. 関連分野の代表的先行研究を的確に把握した上で、当該研究をその研究動向の中に位置づけていること。
3. 研究目的に基づいて適切な研究方法が用いられ、論証のためのデータ・資料が適切に収集されるとともに、的確に分析されていること。
4. 論証過程において、論旨が明確かつ一貫しており、学術論文として体系的に構成されていること。
5. 当該分野における学術研究として、独自性と創造性を有すること。
6. 研究倫理を遵守していること。

【博士学位論文】

1. 研究の目的、および、その学術的・社会的意義が明確かつ的確であること。
2. 関連分野の先行研究を網羅的かつ包括的に把握した上で、当該研究をその研究動向の中に位置づけていること。
3. 研究目的に基づいて適切な研究方法が用いられ、論証のためのデータ・資料が適切かつ十分に収集されるとともに、的確に分析されていること。
4. 論証過程において、論旨が明確かつ一貫しており、学術論文として体系的に構成されていること。
5. 学術研究として、独自性と創造性を有するとともに、社会的な貢献をなしうるものであること。
6. 研究倫理を遵守していること。

心理学専攻

【修士学位論文】

(論文構成)

1. 論文の題目が適切であること。
2. 研究の背景が記述され、研究目的が明確であること。
3. 研究方法が記述されており、目的に沿った方法であること。
4. 目的に対応して結論が適切に導き出されていること。
5. 引用文献が適切に用いられていること。
6. 適切な章立てにより、前項までの内容が不足なく含まれていること。
7. 研究者倫理を遵守したものであること。
8. 原則として日本語または英語で執筆されていること。

(論文内容)

1. 専攻分野において十分な学術的価値を有すること。学術的価値とは、未知の事象・事物の発見、新しい分析方法や理論の構築・展開、新しい学問的解釈や概念の提出など、当該分野における学術研究の発展に貢献をなすものを指す。
2. テーマの選択、ならびにそのテーマに即した研究方法の選択が、先行研究を着実に踏まえて行われており、学界において一定の評価が得られるものであること。
3. 選択したテーマと研究方法に従って先行研究・データ・資史料などを的確に収集・処理し、分析・解釈を加えていること。
4. 論理的に一貫した構成と内容を有すること。
5. その領域及び近隣の領域の優れた先行研究の水準に達していること。

【博士学位論文】

(論文構成)

1. 論文の題目が適切であること。
2. 研究の背景が記述され、研究目的が明確であること。
3. 研究方法が記述されており、目的に沿った方法であること。
4. 目的に対応して結論が適切に導き出されていること。
5. 引用文献が適切に用いられていること。
6. 適切な章立てにより、前項までの内容が不足なく含まれていること。
7. 研究者倫理を遵守したものであること。
8. 原則として日本語または英語で執筆されていること。

(論文内容)

1. 専攻分野において国際水準での十分な学術的価値を有すること。学術的価値と

は、未知の事象・事物の発見、新しい分析方法や理論の構築・展開、新しい学問的解釈や概念の提出など、当該分野における学術研究の発展に貢献をなすものを指す。

2. テーマの選択、ならびにそのテーマに即した研究方法の選択が、先行研究を着実に踏まえて行われており、学界において一定の評価が得られるものであること。
3. 選択したテーマと研究方法に従って先行研究・データ・資史料などを的確に収集・処理し、分析・解釈を加えていること。
4. 論理的に一貫した構成と内容を有し、高いレベルで完結性を有すること。
5. その領域及び近隣の領域の優れた先行研究の水準に達していること。

教育学専攻

【修士学位論文】

1. 研究目的および意義が明確かつ的確であること。
2. 関連分野の先行研究を包括的に把握した上で、当該研究をその研究動向の中に位置づけていること。
3. 研究目的に基づいて適切な研究方法が用いられ、論証のためのデータ・資料が適切かつ十分に収集されるとともに、的確に分析されていること。
4. 論証過程において、論旨が明確かつ一貫しており、学術論文として体系的に構成されていること。
5. 当該分野における学術研究として独創性を有すること。
6. 研究倫理を遵守していること。

【博士学位論文】

1. 研究の目的、および、その学術的・社会的意義が明確かつ的確であること。
2. 関連分野の先行研究を網羅的かつ包括的に把握した上で、当該研究をその研究動向の中に位置づけていること。
3. 研究目的に基づいて適切な研究方法が用いられ、論証のためのデータ・資料が適切かつ十分に収集されるとともに、的確に分析されていること。
4. 論証過程において、論旨が明確かつ一貫しており、学術論文として体系的に構成されていること。
5. 学術研究として独自性と創造性を有するとともに、社会的な貢献をなすものであること。
6. 研究倫理を遵守していること。